

(清水町) 清水ミライ自分ごと化会議 (情報発信②) 議事メモ

日時	令和2年6月28日(日) 13時00分から15時45分まで
場所	各自オンライン参加
その他	全体コーディネーター 伊藤伸 (構想日本) コーディネーター 渡辺浩二 (十勝の未来を考える自治体職員会の会: 芽室町職) ゲストナビゲーター 中田華寿子 (アクチュアリ株式会社代表取締役、構想日本理事) ナビゲーター 藤谷満伸 (十勝の未来を考える自治体職員会の会: 大樹町職) オブザーバー 下保朋子 (企画課広報広聴係長) 中澤優人 (企画課広報広聴係主事) 参加者数 4名 傍聴者数 (町民) 0名、(町外) 0名、(報道) 1名 事務局 前田 真 (企画課長)、川口二郎 (企画課長補佐)、 田村幸紀 (企画課政策企画係長)、木村翔 (企画課政策企画係主事)、桂井那津未 (企画課政策企画係主事)、川岸祐仁 (構想日本)

趣旨・概要

第5回目のテーマは「少子高齢化・情報発信」

- (1) 最初の3回は、アンケート結果で「まちの強み」をテーマに、1テーマを1回の開催で完結させてきたが、第4回からはアンケートで意見が多く出た「少子高齢化」と「情報発信」といった、「まちの課題」について議論を進めるため、3回継続して同一テーマで議論する。
- (2) 情報発信では、町民アンケートやこれまでのミライ会議においても共通して挙げられた内容であることから、現在の情報発信方法等の整理をした中で、今の時代にあった発信方法を検討した上で、個人・地域・行政それぞれの立場から何が必要かを考える。

前回の班をさらに2つに分け、オンラインで会議を実施した。これまでの会議の振り返りを行ったのち、ナビゲーター及びオブザーバーを交えて前回と同じテーマでグループ討議をおこなった。

全コ：全体コーディネーター、コ：コーディネーター、ゲ：ゲストナビゲーター、ナ：ナビゲーター、メ：メンバー、オ：オブザーバー、事：事務局

これまでの振り返り

清水町の第6期総合計画（10年計画）を作成するにあたり、いろいろな住民から意見を聞くために無作為抽出という手法を使ってこの自分ごと化会議を行ってきた。この計画を作るプロセスの中にいろいろな人に関わってもらい、「自分ごと化」として捉えてもらうことを目的としている。去年の7月からスタートし今日が5回目となる。最初の3回は清水町の強みを中心に議論をしてきた。4回目以降については課題として取り上げられた部分について単発ではなく3回通して議論していくこととした。今日は「情報発信」班になる。前回の改善提案シートを取りまとめた結果、「情報発信の内容と方法」「コンテンツの使い方」「商店街の活性化」の3つを現状の課題として意見が出ていた。前回は発散の回ということで「自分たちが町内で受け取る情報のこと」「清水町の強みを町外へ発信すること」の2つの視点で様々な意見を出してもらった。今回もこの2つの視点を中心に情報発信の手法について議論していければと思う。10年後の社会も考えながらいろいろな手法を考えていただければと思う。

テーマについて議論（高齢化対策）

事務局、オブザーバーより資料説明。

ゲストコーディネーターより話題提供。

コ：清水町の強みを町外へ発信することについて意見をいただきたい。またコロナの情報はどこからの情報が一番役に立ったか。

メ①：人によって必要な情報や受け取り方が違う。様々な角度から情報を発信するために色々な人が発信することがより良い情報発信につながると思う。コロナでは新聞やホームページの情報を基に感染防止対策を念頭に活動していた。

メ②：「伝える」と「伝わる」の区別が非常に大事だと感じた。住民からの発信について正確性も重要なため、町民が直接発信するのではなく、一定のルールやどこかを介して情報を伝えることが大事。コロナではマスコミの情報が早かったが、全国統一の情報であり、地域によっては正確性が欠ける情報も多かったため、混乱することがあった。

メ③：全年齢に向けての情報発信が難しいと感じた。正しい情報を同じ速度で伝えるにはどうしたらよいか考えなければならない。情報のまとめ方を工夫する必要がある。コロナではネットから情報を得ていた。どれが正確な情報か見分ける努力をしている。

メ④：テレビや新聞で情報を得ることが多い。ネットが苦手なため、覚える努力をしていきたい。高齢者に手厚い町だと感じる。子育て環境も良い。奨学金への補助金制度の活用が増えれ

と、若い人の定住につながるため人口減少の対策になる。住みよい町なため、この魅力を発信することで清水町に住む人が増えれば良いと考えている。

コ：当初のアンケートの中でも、清水町の魅力が外に発信できていないという町民の声が多かった。なぜ清水町の魅力が上手に発信できていないのか。誰がどのような手法を使って発信すればよいのか。

メ③：わかりやすく、キャッチーなフレーズが必要。町の魅力を町民全体で共有することが大事ではないかと感じる。

メ①：人の興味は人それぞれのため、たくさんの情報を詰め込むのではなく、その人が必要な情報をわかりやすく伝える方法が良いと思う。また色々な情報ツールがあるので、あらゆるものを活用して伝えることや農業者や消費者など様々な立場の人が伝えることがより良い情報発信につながると思う。

ナ：町のPRが下手だという意見が多かった。大樹町も行政が良いPRをしているわけではなく、町の中で宇宙・ロケットという取り組みがある。この情報を発信しているのは、ロケットを作っている人やそれを応援している地域の人達であり、この取り組みがメディアに取り上げられたため有名となった。行政が主体ではなく、地域全体で取り組んでいることが外へのPRにつながっている。堀江さんのことが全国的な話題となり、町の名前を売ってくれた部分もある。役場が発信する情報も必要なことだと思うが、更に地域の人たちの情報が町の魅力発信につながると思う。

コ：大樹町は町を応援している人が魅力を発信している。どのようにして町を応援する人達を増やしていくのが大事なことだと思う。

ゲ：それぞれがそれぞれのストーリーを発信していく方法もあるが、1つの象徴的なものをみんなで言い続けるという方法もある。町を応援してもらうために統一したイメージやコンセプトを作ると効果的である。この統一したイメージやコンセプトを軸にそれぞれが情報発信していくと良いと思う。

メ②：郷土愛をテーマに授業を行った。食や自然に関する意見が多かった。これは子ども達が実際に感じたことだけではなく、親や周りの人が言っていることに影響されている部分もあるのではないかと思う。

事：当初のアンケートで清水町の強みは「食と農業」という意見が多かった。全道のご当地グ

ルメグランプリで3連覇をした十勝若牛を使った「牛玉ステーキ丼」や全国的に有名な牛トロフレックを使った「牛トロ丼」もあり、「肉の町」としてPRを続けている。また町民全員がベートーヴェンの「第九」を歌うことができる文化の町でもある。さらにアイスホッケーがとても盛んな町であり、これらが清水町の売りになるのではないかと感じた。

ゲ：キャッチーなフレーズで特徴を言えると良いという意見があったため、それぞれのテーマで作ってみると良いかもしれない。それをツイッターのハッシュタグ等で拡散していくのも良いのではないかと感じた。

コ：キャッチフレーズは町民が考えた方が良くと思う。また資料にもあった太田市の情報誌のように、町民だけで情報誌を作るとそのようなフレーズが生まれるかもしれないため、おもしろいのではないかと感じた。

事：この情報誌を見て、自分の住んでいる町について知らないことがたくさんあると感じた。太田市の情報誌は一例ではあるが、自分たちの町の良いところを目を向ける良いきっかけになったと感じる。

コ：情報発信の手法が重要ではなく、町の魅力を掘り下げていくことで、自然と町外へ発信にされていくものではないかと感じている。町の強みである食や農業、文化、スポーツに携わっている当事者の思いを発信することが良いのではないかと。もし太田市のように情報誌を作ったら、町民はどんな反応をすると思うか。

メ③：個人的には情報誌を見る機会もあるため興味がある。また他の町について、人ではなく情報誌から情報を得ることもあるため良いと思う。

ゲ：町外へ発信をする場合、紙媒体での発信をするのか。ネットを使った発信をするのか。紙だとどうしても印刷費用や発信までに時間がかかるが、みなさんはどう考えているか。

メ②：上手に発信するとはどういうことか。全年齢への発信を考えると1つの手法だけではだめだと思う。誰が発信するかという話で太田市の市民ライターの話は良い事例で今はこういう部分がすごく必要だと思う。誰か働きかける人が必要だと感じる。情報誌は若者向けではないかもしれないので、これをデジタル化するなどの工夫は必要かもしれない。

メ①：SNSに馴染みがない人がたくさんいると思う。この人たちがSNSに触れるためのきっかけを作る方法を検討していければと思う。

ゲ：今の子ども達は生まれたときからデジタルがあったデジタルネイティブなため、慣れ親しんでいる。これからはこの子ども達が社会をリードしていく。ネットに馴染みがない人に対して、行政がネットの触れるきっかけ作りできれば良いと思った。この2つの層を分けてアプローチすることが大切。

全コ：行政が主体になると良くないと思っている。行政の役割はコンテンツを磨くことと町の中にいる人と人をつなげることだと思う。他の自治体の住民協議会の事例で「歴史と文化の活かし方」というテーマで議論したときにご当地カルタというアイデアが出たため、これを自治体に提案書として提出した。この議論をしたメンバーが協力してご当地カルタを作った。コンテンツがあると知った中でどうやって伝えていくかという良い事例だと思う。町の強みの背景を伝えていくことで、このような町民ができる仕組みができれば良いと思う。

コ：この会議が終わった後も、参加者たちがつながっていくような仕組みも大事だと思う。

全コ：大樹町の宇宙への取り組みの経緯を教えて欲しい。

ナ：35年前に航空宇宙関連の企業誘致を始めた。その中で堀江さんが作ったインターステラテクノロジズという会社が実験を始めたのがきっかけ。これを町も協力していくことで、取り組みが加速していった。従業員のほとんどが大樹町に住んでいる。

全コ：この取り組みに対しての町民はどう感じているか。色々な自治体のシティプロモーションを見てきた中で外に目を向けがちで、中に住んでいる人の満足度が低い。そのため一過性になってしまうケースが多い。

ナ：大樹町が宇宙への取り組みを進めていることを町民はあまり知らなかったが、メディアでの報道や従業員が町民と触れ合うことで広まっていった。

事：人と人とのつながりがシティプロモーションや町外への発信の肝になると感じた。町民に親しまれているスポーツや文化をしている人が直接発信することも良いが、そういった活動に興味を持つ町外の人やインフルエンサー的な人が町に寄ってくるような活動を行うことが大事だと思う。町民との距離が近いという強みを生かして、町民が町を誇りに思っているということを外に向けて発信するための支援ができれば良いのではないかと感じた。

事：情報が一方通行になってはいけないと感じた。これからは対話型の方法が必要になる。双方向性を持ったホームページや広報を作っていければと思う。

全コ：1ヶ月間の清水町と大樹町のツイートの件数を調べてみると、清水町は1日平均10件、大樹町は50件のつぶやきがあり、大樹町がいかに多いかわかる。

事：行政は自由な発信ができない。町民が自由に町の魅力を発信する人が増えれば、町外への情報発信につながると思う。

コ：清水町の魅力を町外に発信していくためにどうしたらよいか、改めて今日気がついた部分を教えてほしい。

メ④：自分の感じたことを周りに発信していきたい。

メ③：住民個人で発信していくのは難しい。清水町の魅力を自然と話せるようになれば良い。町への興味や魅力を集めて発信できる場やきっかけがあると良いと思う。

メ②：清水町の魅力に対して町民は自信を持っているため、もっと外に出て発信していけば良いと思う。

メ①：町の魅力を前面に押し出して発信していければと思う。また、他の町との差別化が図れるような魅力の発信も必要。人の興味は様々なため、色々な文化やスポーツ発信をしていく。また、発信する人を増やせるような環境づくりができれば良いと思う。

ゲ：清水町の情報発信の仕方はわかりやすいと感じた。住民の話聞く姿勢のある良い町だと思う。文化は人から作られると信じている。大樹町の魅力はロケットではなく、そこに関係する人たちのドラマが象徴となって注目されていると思う。清水町の間人臭い思いを象徴したものが文化やスポーツにつながってくると思うので、町民それぞれの思いを大事に積み上げていくことが必要。そこを役場がコーディネートしていくと良いのではないかな。

全コ：中田さんの話題提供の中でフロー（今知りたい情報）とストック（必要なときに調べたい情報）の話があった。単発の情報をホームページにストックしておくことで、町の全ての情報がホームページから得られるので良いのではないかなと思う。行政のホームページは公平性が重要視されるが、変な意味での公平性は排除した方が良い。太田市の市長は不公平であるべきと言っており、それが魅力につながっている。

コ：外向きの情報発信だけでなく、地元の人にどのように影響を及ぼせるか。郷土愛をテーマに子ども達へ授業で取り組んでいるのはすごく良いと思う。このような取り組みから町を好きになり、将来的に発信力にもつながると感じた。